

Phonak

Target 9.0

Phonak Target ユーザーガイド



Phonak Target(以下、Target)は聴覚専門家が顧客に合った補聴器を設定、プログラム、フィッティングするために使用します。本ガイドは、Target の機能詳細およびフォナック製補聴器をフィッティングする手順や操作方法における詳細な資料となります。

使用対象:

補聴器のフィッティングを必要とする軽度から重度の一側性または両側性難聴者。耳鳴りバランスは医師の指示に基づいて 18 歳以上の成人を対象としています。

適応:

Target は互換性のある補聴器でご利用いただけます。補聴器や耳鳴りバランスにおいて一般的な臨床的適応は以下のとおりです:

- 難聴が見られること
 - 一側性または両側性難聴
 - 伝音難聴、感音難聴、または混合性難聴
 - 軽度～重度
- 慢性的な耳鳴りがあること(医療従事者の指示のもと、そして耳鳴りバランスが利用可能な対象補聴器のみ)

禁忌:

補聴器や耳鳴りバランスにおいて、一般的な適応範囲は以下のとおりです:

- 難聴が見られること
 - 一側性または両側性難聴
 - 伝音難聴、感音難聴、または混合性難聴
 - 軽度～重度難聴
- 慢性的な耳鳴りがあること(医師の指示がある場合、かつそして耳鳴りバランスを搭載した器種のみ)

顧客に対し医療機関または専門家を紹介する主な基準は以下のとおりです:

- 先天性または外傷性の明らかな耳の変形
- 90 日以内における耳漏の病歴
- 90 日以内における片耳または両耳の急性または急速進行性の難聴の罹患歴
- 急性または慢性のめまい
- 気導と骨導の差が 500 Hz、1000 Hz、2000 Hz で 15 dB 以上
- 外耳道の過度な耳あかの蓄積、または異物の明らかな証拠

- 耳の痛みまたは不快感
- 以下のような、鼓膜や外耳道の異常：
 - 外耳道の炎症
 - 鼓膜穿孔
 - 補聴器専門家/販売店が医学的問題があると考えられる、その他の異常

以下の場合、補聴器専門家への紹介が顧客にとって不利益またはメリットが少ないと判断する可能性があります：

- 医療専門家によって症状が徹底的に調査され、可能な治療が提供されたことの十分な証拠がある場合
- 前回の調査や治療以降、症状が悪化していない、または大幅に変化していない場合
- 顧客が、医学的な意見を得るためにアドバイスを受け入れない有効な意思決定を自ら提示している場合、以下事項を検討した上で、適切な補聴器システムを推奨することは許容されます：
 - 推奨しても顧客の健康や全般的なウェルビーイングに悪影響を及ぼさない場合
 - 顧客の最善の利益に関わる全ての必要事項が検討されたことが記録で確認されている場合。法的に必要な場合、医療または専門家への紹介に対するアドバイスを承認しておらず、情報を基に自ら判断したと確認できる免責事項に顧客が署名している場合

使用制限：

Target の使用は互換性があるフォナック製補聴器のフィッティングや調整に限定されます。Target は診断を目的とはしていません。

互換性のある補聴器：

プラットフォーム	器種タイプ
ルミティ	全ての器種
パラダイス	全ての器種
マーベル	全ての器種
ピロング	全ての器種
ベンチャー	全ての器種
クエスト	全ての器種
スパイス	全ての器種

副次的影響：

これらの副次的な影響はフィッティングソフトではなく、互換性のある補聴器に基づいています。

耳鳴り、めまい、耳垢栓塞、血圧上昇、発汗や湿気、水ぶくれ、痒みや湿疹、閉塞感や膨満感、これらを原因とする頭痛や耳の痛みなど、補聴器による身体的な副作用は聴覚専門家によって解消または軽減できる可能性があります。補聴器には顧客を強大音に晒す場合があり、その結果音響外傷による聴力低下を招くリスクがあります。

臨床的なメリット：

顧客が得られるメリットは、Target を使って自分自身が抱える聞こえのニーズに合わせて補聴器を調整でき、補聴器にその内容を保存できることです。聴覚専門家が得られるメリットは、顧客の管理に関するものです。

目次

顧客とセッション	4
構造とナビゲーション	4
補聴器 / クロスの準備	4
フォナック トライアル補聴器の設定	5
補聴器の接続	5
音響パラメータ	5
レシーバチェックアクセサリ	6
フィッティング	6
ハウリングと実耳テスト	6
オーディオグラムダイレクト	7
基本調整	7
自動順応マネージャ	7
リアルタイムディスプレイ	7
微調整	8
利得&MPO	8
検査用の設定	9
プログラムオプション	9
オーディビリティファインチューニング	9
サウンドリカバー2	9
TK/利得(35 dB)	10
オートマッチクファインチューニング	11
音素認識テストの結果	11
データログ	11
機器オプション	11
リモートサポート	12
フィッティング セッションの終了	13
コンプライアンス情報とシンボルマークの説明	13
安全に関する重要な情報	14
システム要件	15

顧客とセッション

登録顧客情報がない場合、**新規顧客...** から顧客を作成します。
必要事項を入力し、**保存** をクリックします。

登録した顧客情報がある場合、**全件表示** をクリックして表示します。

NOAH からアクセスする場合は、NOAH の顧客データを利用し、モジュール一覧から **Target** を起動してください。

新しいセッション をクリックしてセッションを開きます。データベースから開く場合は、利用したい日付を選択し **セッションを開く** をクリックしてセッションを開きます。

Target を使って実践的にトレーニングを行い場合、**新しいセッション** の▼の中にある **【新しいトレーニングセッション】** をクリックすると、好きな補聴器を使ってフィッティングをシミュレーションするトレーニングを行えます。

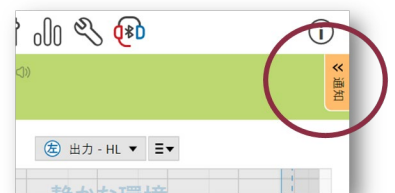
構造とナビゲーション

Target のセッション内に入ると、3 つのタブ **【顧客】**、**【機器】**、**【フィッティング】** および上部ダッシュボードには、簡単なナビゲーションと状況情報が表示されます。

ダッシュボードには、フィッティング状態とショートカットも表示されます。

[通知] サイドバーには以下のことが表示されます。クリックすると通知画面が表示されます。

- データログの同意
- ハウリングと実耳テストの未実施通知
- レシーバチェックの失敗通知
- オーディオグラム未入力通知(スタンドアローンのみ)



補聴器 / クロスの準備

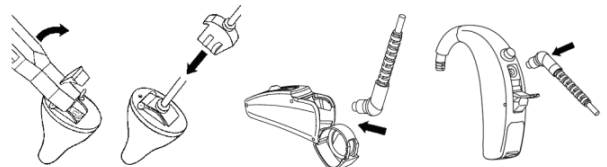
■ ノalink ワイヤレス / アイキューブ II

プログラミングケーブルは不要です。補聴器の電池ホルダーを開けて電池を入れ、電池ホルダーを閉じれば補聴器の電源が入ります。充電式補聴器の場合はチャージャーケースから取り出すか、プログラムボタンを長押しして電源を入れます。

ノalink ワイヤレスはクロス P で利用可能です。アイキューブ II はクロス B 以前で利用可能です。
クロスと一緒に使用する補聴器は同じ器種タイプでのみ使用できます(例: オーデオ P-R とクロス P-R)。

■ NOAHlink または HI-PRO USB

プログラミング用のケーブルを補聴器とフィッティング機器に接続します(右図)。プログラミングケーブルを接続したままクロスのデモを行うことはできません



フォナック トライアル補聴器の設定

フォナックのトライアル補聴器では、1つの機器で4つのクラスに設定変更することができます。

【トライアルとツール】 > 【トライアル補聴器】 を選択し、【クラス変更の設定...】 ボタンを押して開始します。設定変更は片耳ずつ行います。



補聴器の接続

新しいフィッティングセッションを開き、正しいフィッティング機器が表示されていることを確認します。フィッティング機器を変更するには、ダッシュボードのフィッティング機器の隣に表示されているプルダウン矢印▼を使用します。

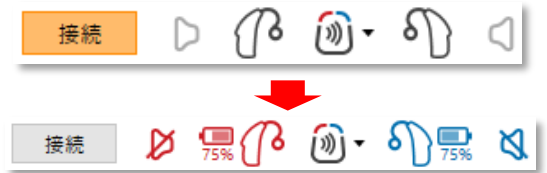
オレンジ色の【接続】をクリックしてフィッティングを開始します。

接続した補聴器がダッシュボードに表示されます。

接続に成功すると【接続】ボタンはオレンジ色からグレー色に変わります。

接続後、補聴器アイコンにカーソルを合わせると以下のことが確認できます：

- ・ 製品名 ・ 品番 ・ 補聴器のファームウェアバージョン
- ・ ロジャータ受信機 インストールの有無 ・ 接続状況



ダイレクト接続できる機器の場合:

- ・ 利用可能な機器は自動的に表示されます。
- ・ 機器が表示されない場合は、電池ホルダーを開閉するか、充電式補聴器の電源を入切し、ペアリングモードにします。
- ・ 複数の機器が利用可能状態である場合、補聴器のプログラムスイッチまたは多機能ボタンを押すと表示された該当機器がハイライトされます。または、 をクリックすると該当補聴器からピープ音が聞こえます。装着する左右を確定し【接続】をクリックします。
- ・ 過去に接続したことのある機器は、ペアリング済み機器として記憶され、左右が自動的に選択表示されます。



新しいフィッティング時のみ、フィッティングセッションの情報に基づき、推奨される装用経験が選択されます。

NOAHを使用している場合、NOAHに登録されたオーディオグラムが自動的にTargetにインポートされ、事前計算されます。

音響パラメータ

補聴器を接続すると、音響パラメータの画面に自動的に移動します。音響パラメータ内では自動的に左右をリンクさせます。音響パラメータの内容はいつでも変更や左右のリンク解除ができます。変更した後は再計算するようにしてください。

【機器】 > 【音響パラメータ】 をクリックします。正しい音響カプリング情報が入力されているか確認してください。

レシーバチェック

初めて RIC タイプ補聴器を接続する際、補聴器に接続されているレシーバが【音響パラメータ】画面で選択されているものと一致しているかどうか自動的にチェックします。【チェック】ボタンがグレー色であればレシーバは確認済みです。オレンジ色の場合はまだ未確認なので、レシーバチェックを行ってください。

一致していない場合は、Target がその旨を通知し、レシーバを確認するようメッセージが表示されます。その場合、レシーバを正しいものに取り替えるか、音響パラメータを変更してください。既にハウリングと実耳テストを実施済みの場合は、再試行することをお勧めします。



アクセサリ

接続した補聴器によっては、フィッティングセッション中に USB ケーブルを使って接続したアクセサリを自動識別できます。識別が正しくされていれば【識別】ボタンはグレー色です。識別されていない場合はオレンジ色です。識別されたアクセサリは、ダッシュボードにアイコンが表示されます。

アクセサリは、【機器】 > 【アクセサリ】 をクリックします。自動識別も可能ですが、【識別】ボタンをクリックして手動識別することも可能です。



保存する際に、アクセサリは保存ダイアログにリストされます。

フィッティング

ハウリングと実耳テスト

【フィッティング】 > 【ハウリングと実耳テスト】 にアクセスします。

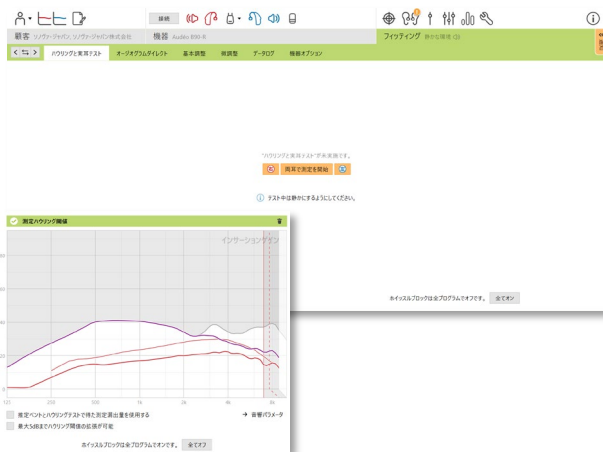
ハウリングテストは両耳でも片耳ずつでも行うことができます。【R】 / 【両耳で開始】 / 【L】 をクリックしてテストを開始します。

※ リモートサポートのセッション内でハウリングと実耳テストを実施することはできません。

ハウリングと実耳テストの測定結果を使用し、RECD 推測値 および音響パラメータ設定を計算するには、【推測したベントを使用して補聴器設定を再計算します。】に✓を入れます。

RECD とベント評価が可能な場合にのみ✓を入れることができます。

パラダイス以降の補聴器の場合：



テスト結果を使用する場合は、【推定ペントとハウリングテストで得た測定漏出量を使用する】に✓を入れます。

また、利得の限界をさらに上げるために、ハウリング閾値をオーバーチューニング(拡張)することが可能です。オーバーチューニングを行うには矢印をクリックします。利得の限界をさらに上げると、上げられた利得の限界を示すために紫色の陰影が表示されます。赤色が濃くなるほどハウリングと歪みがより大きい領域であることを示します。また、オーバーチューニングを使用すると、ホイッスルブロック機能が自動的に強に設定されます。

オーディオグラムダイレクト

オーディオグラムダイレクトは、フォナック Target 内で実施できるインサイチュ聴力測定です。補聴器を装着した状態で直接測定できます。オーディオグラムダイレクトは診断的な聴力検査に代わるものではありません。

オーディオグラムダイレクトを行う前に【ハウリングと実耳テスト】が実行済みであるか確認してください。

接続した補聴器を使用して装着閾値と不快閾値を測定するため、【オーディオグラムダイレクト】>【開始】ボタンを押して始めてください。【断続音】を選択することもできます。前回の聴力テストについては、【履歴】をクリックし比較およびレビューできます。

測定動作に関する初期設定を変更するには、【スタートアップ】>【フィッティングセッション】>【オーディオグラムダイレクト】から行います。

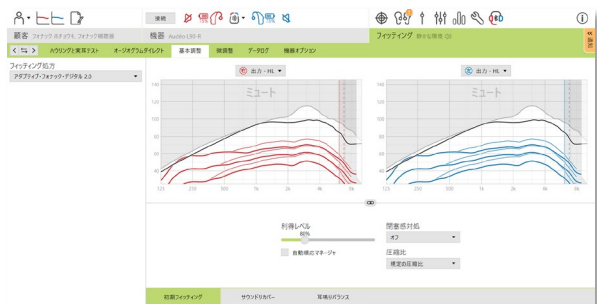


基本調整

利得レベル、閉塞感対処、圧縮比を調整する場合は、【基本調整】>【初期フィッティング】から行ってください。利得レベルおよび圧縮比の設定は、顧客の装着経験および選択されたフィッティング計算に基づいています。

接続した補聴器によっては画面下部より【耳鳴りバランス】や【CROS パランス】へアクセスすることも可能です。

※ 耳鳴りバランスは、医療従事者の指示のもと使用してください。



自動順応マネージャ

自動順応マネージャを使用する前に、【ハウリングと実耳テスト】を実行してください。

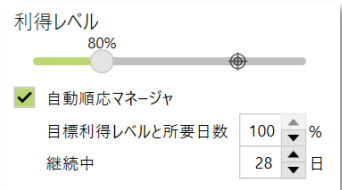
【初期フィッティング】>【利得レベル】のプルダウン▼を開き【自動順応マネージャ】を選択します。ハウリングと実耳テストを実行していれば、自動順応マネージャを選択することができます。

【...】をクリックして、開始時と終了時の目標利得レベルを設定します。さらに継続期間を指定して【OK】をクリックして決定します。



パラダイス以降の補聴器の場合：：

自動順応マネージャを使用するために【ハウリングと実耳テスト】を必ず実行する必要はありません。自動順応マネージャを使用するには✓を入れてオンにしてください。目標利得、その目標利得に達するために顧客が必要とする所要日数を指定してください。



リアルタイムディスプレイ

リアルタイムディスプレイにアクセスするには、タイトルバーの右側にある【顧客画面】をクリックします。



リアルタイムディスプレイは、すべての補聴器が利用できるフィッティング特性画面のオプション表示機能で、ユーザーにわかりやすいよう2つ目の画面に拡大して表示することができます。この機能は Target で補聴器接続中にのみ表示させることが可能です。

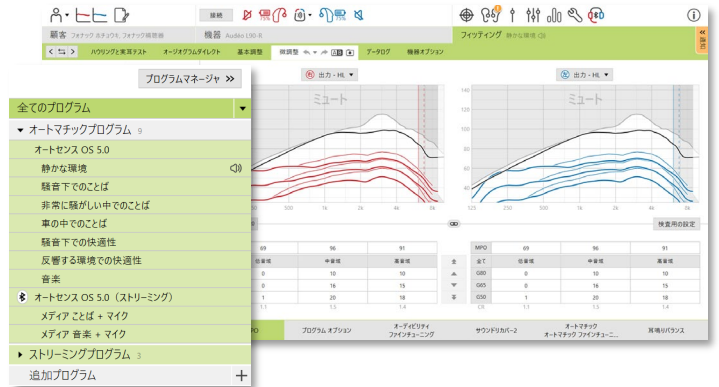
ステレオや環境サンプル音を使用する際は、語音明瞭度、利得、出力、サウンドリカバリーチャンネル分割などデモを行いやすくなります。

微調整

【微調整】画面の左側は、プログラム内容の確認や設定する際に使用します。

プログラムは大きく分けて3つの項目に分かれています：

- ① オートマッチプログラム
 - オートセンス OS
 - オートセンス OS(ストリーミング)
- ② ストリーミングプログラム
- ③ 追加プログラム



すべてのプログラムを同時調整するには【すべてのプログラム】をクリックします。

オートマッチプログラムすべてを同時調整するには【オートセンス OS 5.0】をクリックします。

ストリーミングプログラムすべてを調整するには【オートセンス OS 5.0(ストリーミング)】をクリックします。選択されたプログラムは緑色にハイライトされます

1つのプログラムを調整するには、プログラムリスト内の【静かな環境】などをクリックして調整します。追加プログラムを追加するには、追加プログラム右側の【+】をクリックしてアクセスします。

プログラムリスト上部の【プログラムマネージャ>>】をクリックすると、全てのプログラムの詳細設定を確認することができ、同時に設定や変更を行うことが可能です。

元に戻す↶/やり直し↷機能は【微調整】メニューバーの横にあり、微調整内容を元に戻す/やり直しを行うのに使用します。(元に戻す...1つ前に戻る、やり直し...1つ前に戻る前に戻る)

追加プログラム【+】から「マスク用プログラム」を追加することが可能です。マスク用プログラムは静かな環境プログラムをベースに、中～高音域に応じて3～6dB増幅しています。追加したマスク用プログラムは、Target およびマイフォナック アプリ内では「静かな環境 1」とプログラム名が表示されます。



利得 & MPO

調整したい利得値をカーソルで選択します。利得値は入力レベル別でも全てでもカーソルをドラッグして指定すれば調整可能です。利得は 1dB ずつ、または 3dB ずつ上げ下げすることが可能です。

全帯域で MPO を同時調整するには MPO 値の左側にある **[MPO]** をクリックします。全体の利得を変更するには **[全て]** をクリックします。

周波数ごとの圧縮比(CR)は、利得値の真下に表示されます。利得調整すると同時にこの圧縮比も自動調整されます。

特性カーブ上部にある **出力 - SPL 2cc** から特性表示方法を変更できます。

検査用の設定

補聴器の装用特性を測るには **[検査用の設定]** から実行します。4つのプロセス(1. 準備 2. タイプ 3. プログラム 4. 検査)があります。検査用の設定にすることで、サウンドクリーニング機能などが無効となり、正しく測定することが可能になります。

※検査用の設定を使用せず、利得&MPO やプログラムオプションの画面から無効/オフに設定しても背景システムで動作している機能は無効にならないため、正しい特性が表示されない可能性があります。補聴器の装用特性を測る場合には、検査用の設定から実行ください。



プログラムオプション

プログラムオプションの詳細内容は初期設定から変更することもできます。また、現在設定されている内容は 0~10 までの数値がスライダー上に表示されます。スライダー上に設定可能な範囲が表示されますが、この範囲は補聴器のクラスによって異なります。

ダイレクト接続できる補聴器の場合、ストリーミング機器(例:テレビコネクター、ロジャー、パートナーマイク)使用時の切替方法を設定することができます。



ダイレクト接続できる機器で設定可能な切替方法:

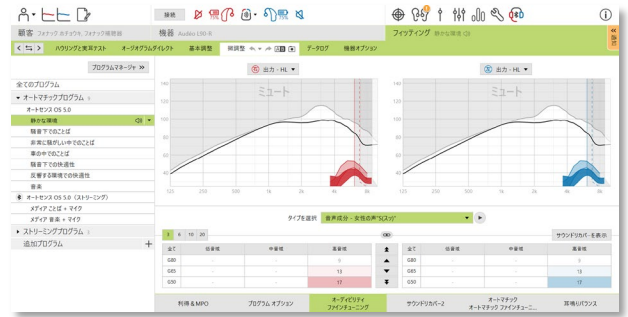
- 【オートマチック】**
 自動的にストリーミングプログラムに切り替わり、ストリーミング信号を受信します(初期設定)。
- 【マニュアル】**
 ストリーミング信号を受信してもビープ音は聞こえず、手動でプログラムを順に切り替えた時の最後にストリーミングプログラムが追加されます。
- 【マニュアル(ビープ音あり)】**
 ストリーミング信号を受信するとビープ音が補聴器から聞こえます。手動で順にプログラムを順に切り替えた時の最後にストリーミングプログラムが追加されます。ビープ音が聞こえてから 15 秒以内に多機能ボタンを押すとストリーミングプログラムに一気に切り替わります。



オーディビリティファインチューニング

選択した音サンプルに基づき、利得値と特性曲線が色濃く表示されます。音サンプルは、特定の聞こえの環境をシミュレーションして再生されます。

利得値は、入力音レベル(大中小)ごとに表示されます。選択した音サンプルに基づき、可聴性を上げるのに効果的な周波数と利得値にのみ調整されます。右は赤、左は青に色付けられて表示されます。



サウンドリカバー2

仮計算で設定されたサウンドリカバー2 の設定を微調整することが可能です。両耳フィッティングの場合は、良聴耳のカットオフ周波数および周波数圧縮比に基づいて計算されます。サウンドリカバー2は環境適応型周波数圧縮システムで2つのカットオフ周波数(CT1、CT2)で定義されています。

サウンドリカバー2は以下のようになっています：

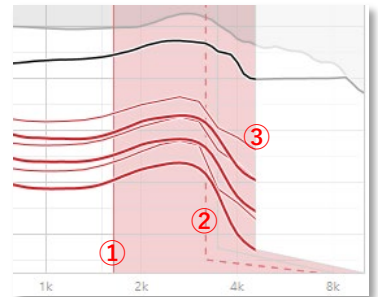
- 8 kHz が 45 dB HL 以下で、水平型または漸傾型の聴力タイプの場合、サウンドリカバー2は初期設定でオンになります。
- 逆漸傾型の聴力タイプ(8 kHz が 3 kHz よりも 30 dB 以上良い)の場合、サウンドリカバー2は初期設定でオフになります。

初期設定でオンの場合、全てのプログラムでサウンドリカバー2 を利用できます。**[サウンドリカバー2を有効にする]** チェックボックスをクリックして無効にすることができます。

サウンドリカバー2を有効にする (1.6 kHz CR 1.3)

サウンドリカバー2の設定は特性画面で確認できます。影付き領域はサウンドリカバー2が有効になっている高音域周波数帯を示しています。

- ① 実線は、カットオフ周波数 1 (CT1)です。
- ② 点線は、カットオフ周波数 2 (CT2)です。
- ③ 一番右端の線は、最大出力周波数です。



環境適応型周波数圧縮は、CT1 と CT2 間の影付き領域内の周波数に適用されます。入力音に高い周波数帯成分が多い(強い)場合、この周波数領域のみが圧縮されます。

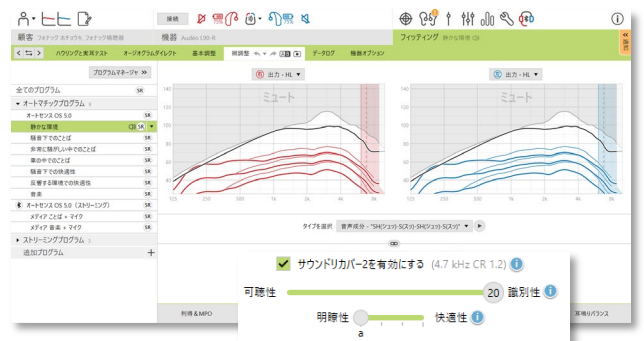
CT2 と最大出力周波数の間の影付き領域内の周波数は、常に圧縮されます。CT1 より低い周波数の入力音は圧縮されません。最大出力周波数を超える周波数の出力はありません。

フィッティングセッションにおいて互換性のない補聴器で両耳フィッティングする場合は、サウンドリカバー2 の設定を確認するようにしてください。

顧客の可聴性または識別性の好みに合わせて、サウンドリカバー2 の強さを設定します。

可聴性は、高音域の音をより良い聞こえの低音域エリアに移行して聞こえやすくします。

識別性は、S や SH の高音域の音をできるだけ原音に近い形で聞こえるよう、高音域エリアに移行して識別しやすくします。



可聴性と識別性の設定に合わせて、明瞭性と快適性の設定を調整してください。明瞭性と快適性のスライダーを調整した後に可聴性と識別性のスライダーを調整すると、バランスを合わせるため、明瞭性と快適性のスライダーは自動的にリセット(再計算)されます。

明瞭性は、高音域の聞こえに違和感がある場合に可聴性と識別性が微調整されます。

快適性は、男性の声、自分の声、音楽をより自然に聞こえるようにします。

TK/利得 (35 dB)

非常に小さい (例: エアコンの音、時計のチクタク音など) 入力音の増幅は、この画面で調整できます。利得を増加するとニーポイント(TK)が下がり、利得を減少させるとニーポイントが上がります。

調整したい値をカーソルで選択します。利得値の下には、各チャンネルのTK値が表示されます。特性画面には非常に小さい入力音の利得/出力カーブが表示されます。チャンネル毎の圧縮比は利得値の直下に表示されます(CR)。

パラダイス以降の補聴器の場合:

パラダイス以降の補聴器は TK/利得(35 dB)の代わりに、プログラムオプション下にソフトスライダーが設けられています。非常に小さい入力音を調整するには、**[プログラム オプション]** の **[ソフトノイズリダクション]** のスライダーを動かして作用レベルを設定します。

ソフトノイズリダクション

0
オフ

オートマチックファインチューニング

聞こえの問題や状況に合わせて微調整できる画面です。選択した音環境と装用者の音環境に対する評価が一致すればその調整内容を利用することが可能です。

推奨される微調整内容を実行する前に必要な微調整の詳細内容が表示されます。選択したプログラムによっては、推奨する音サンプルが予め選択されます。音サンプルは、聞こえの環境をデモするのに再生することもできます。

選択した音サンプルの可聴性向上に関連する利得レベルと周波数のみ調整可能となり、右は赤・左は青といった異なる影で表示されます。

音素認識テストの結果

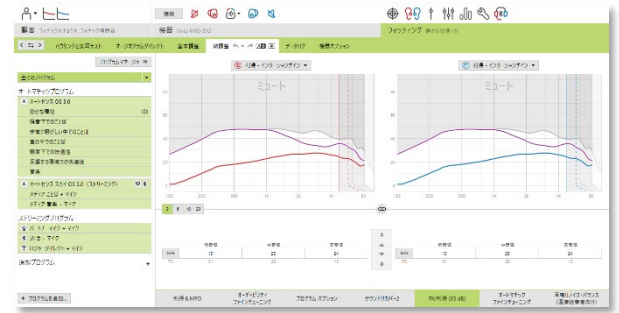
事前に行った音素認識テストの結果が表示されます。そして、フィッティング内容の精度をさらに高めるために、このテスト結果をフィッティング内容に適用させること可能です。互換性のあるテスト結果が NOAH のセッションリストに保存されていれば、Target 上に専用画面が表示されます。

注意: 音素認識テストを利用する場合、Target のソフトとは別に音素認識テスト **[Phoneme Perception Test]** を事前にインストールしておく必要があります。アダプティブ・フォナック・デジタルを使用した場合のみ、推奨する微調整内容が提供されます。フィッティング内容に適用できるのは、NOAH で Target を使用している場合に限りです。

データログ

データログでは、ユーザーがどれくらい補聴器を使用したか、どんな場所にどれくらい滞在したのか、どのプログラムで音量調節を行ったかなどの情報を得ることができます。データログのインフォメーションにアクセスするには、**[フィッティング] > [データログ]** へと進みます。

ユーザーが調節した音量調節を **[ログデータの適用]** からデータログの内容をフィッティングに適用させることも可能です。



機器オプション

[機器オプション] をクリックすると、プログラムスイッチまたは多機能ボタン、ボリュームの作用、Bluetooth、お知らせ音と警告音、スタートアップ、データログなど、補聴器オプションを設定できます。

ダイレクト接続できる機器の場合:

- **[Bluetooth]** タブをクリックすることで、Bluetooth の登録名や使用する側の設定、Bluetooth ペアリングの解除などを行うことができます。
- ロジャー受信機がインストールされている場合は、画面左側の **[ロジャーダイレクト]** をクリックするとインストール状態が確認できます。ダッシュボードの補聴器アイコンにカーソルを重ねて確認することも可能です。
- Bluetooth の周波数は適応型が初期設定になっています。携帯端末が最新機種で補聴器側のファームウェアが未だ対応できていないようなケースだと適応型のままだと音質が悪くなる場合があります。その際には固定型に切り替えてください。



パラダイス以降の充電式補聴器の場合:

- タップコントロールは **[多機能ボタン]** 画面からアクセスできます。タップコントロールを使って通話開始/終了、ストリーミング停止/再生、およびボイスアシスタント開始/停止が使用できます。
- **[タップコントロールの練習と感度設定]** をクリックすると、ダブルタップを実際に行って練習することができます
- **[感度設定]** からタップの反応レベルを設定できます。マイフォナック アプリから設定することも可能です。



リモートサポート

必要要件

- 最適に行うためには、フォナック Target の最新バージョンが必要です。
- マイフォナック アプリの最新バージョンを顧客の携帯電話にインストールしておく必要があります。
- 初回の補聴器フィッティングは、対面フィッティングを実施しておく必要があります(リモートサポート ID 付与のため)。
- ウェブカメラやマイクロホンがコンピューターに内蔵されているか、または外付けウェブカメラおよびマイクがコンピューターに接続されている必要があります。より良好な音質を届けるため、リモートサポートではマイク付きのヘッドフォンを使用してください。
- 安定したインターネット接続(Wi-Fi、LAN または 4G)と、アップロードおよびダウンロード用のデータ転送速度が、少なくとも 5 メガビット/秒が必要です。4G を使用する場合、契約内容に応じてデータ使用量の追加料金が発生する可能性があります。

インターネットの接続状態と設定状態がリモートサポートセッションに対し適切であることを確認してください。

[セットアップ] > [インターネット] > [インターネットサービス] > [接続テスト] の順にクリックします。

確認作業が完了したら、現在の状態が表示されます。

リモートサポートのセットアップ

初回の補聴器フィッティングは、対面フィッティングを実施しておく必要があります。**[セッションを保存して閉じる]** をクリックすると、その顧客の補聴器にリモートサポート ID が付与され、次回以降リモートサポートが有効になります。

リモートサポート セッションを行う前に、顧客はスマートフォンに myPhonak app をダウンロードし、事前に補聴器とアプリをペアリングしておく必要があります。


ビデオ通話とフォローアップ セッション

リモートサポート セッションを開始する前に、顧客の補聴器に新しい電池が入っているか、または充電式補聴器が十分に充電されているか確認してください。リモートサポートの予約をする際に、注意事項として顧客に伝えておくことを推奨します。

顧客とセッションの画面で顧客を選択し、**[リモートサポートを開始]** をクリックすると、補聴器専門家と顧客がビデオ通話することができます。顧客が myPhonak app からリモートサポートセッションに入るまで待機しなければならない場合もあります。

リモートサポートの接続が完了すると、顧客の映像と音声が無効になります。補聴器専門家のコンピューターのビデオとマイクロホンが無効になっているか確認してください。内蔵カメラや外付けカメラ、ウェブカムなど、PC に複数のデバイスが接続されている場合は、リモートサポート画面の右上にある設定ボタンから切り替えることが可能です。この作業は、セッション前でもセッション中でも行うことが可能です。

顧客がリモートサポートのセッションに入り、スマートフォンでカメラとマイクロホンのリクエストを許可した後、双方のビデオ映像が双方の画面上に表示されます。

セッションを開き、通常通りに顧客の補聴器と接続すると、Target のダッシュボード上に  アイコンが表示されます。補聴器が接続されたら、通常通りフォローアップフィッティングを行います。補聴器はオンライン接続されているので、加えた調整内容はすべてリアルタイムに補聴器に伝送されます。

Target のフィッティングセッションを保存して終了するまで、顧客とのリモートサポートを終了できません。リモートサポートセッションの実施中に顧客の補聴器と Target の間で接続が切断されてしまった場合、補聴器は再起動され、直前のフィッティング内容が維持されます。

フィッティング セッションの終了

画面右上にある **セッションを保存して閉じる** をクリックすれば、いつでもフィッティングセッションを閉じられます。

保存したいアイテム(補聴器・アクセサリ・データベース)に✓が入っているか確認します。

Target と接続されている機器およびデータベースに✓がなければクリックして✓を付けてください。

フォナック トライアル補聴器は、保存終了後、自動的に最大 6 週間のトライアル期間が設定されます。再度補聴器を接続して保存すると、新たに 6 週間が割り当てられます。

ダイレクト接続できる補聴器を初めて保存する場合、保存時にリモートサポートの ID が付与されます。ユーザーがマイフォナックアプリを使用していれば、次回以降からリモートサポートフィッティングを行うことが可能になります。

保存ダイアログ上で、補聴器とアクセサリが正常に保存されたか確認できます。

保存が終了すると、Target を起動した最初の画面に自動的に移動します。

NOAH を使用している場合、**[NOAH に戻る]** をクリックすると NOAH のメイン画面に戻ることができます。

コンプライアンス情報とシンボルマークの説明

コンプライアンス情報

欧州: 適合宣言

Sonova AG は、本製品が医療機器規則(EU)2017/745 に準拠していることを宣言します。EU 適合宣言の全文については、以下のアドレスにて製造業者から入手できます: www.phonak.com/us/en/certificates

取扱説明書は、Phonak Target の[ヘルプ]機能から入手できます。全ての Target バージョンに関する全該当言語の取扱説明書の電子版は、以下のウェブページから入手できます。

<https://www.phonakpro.com/com/en/support/other-support/target-fitting-software/dfg-target.html>

セキュリティに関する通知

患者データは個人に属するデータのため、適切に保護することが重要です。

- 最新のオペレーティング システムを使用していることを確認してください。
- インストールされた Phonak Target が最新であることを確認してください。
- Windows のユーザーログインを有効にし、強力なパスワードを使用し、認証情報を機密として管理してください。
- 適切かつ最新のマルウェア対策およびウイルス対策を実施してください。

国内法によっては、データの紛失および/または盗難に対して免責されるには、全ての患者データを暗号化するよう要求される場合があります。パソコン上の全データを保護するために、ドライブ暗号化機能(無料の Microsoft BitLocker など)を利用できます。NOAH を使用している場合は、NOAH のデータベース暗号化機能の利用を検討してください。

常にデータを安全な状態に保つようにしてください。ここに示した内容は、全てを網羅したものではないことに留意してください。

- 安全でない経路でデータを転送する場合は、匿名データにして送信するか、データを暗号化してください。
- バックアップデータは、紛失だけでなく盗難からも保護する必要があります。
- 今後使用しない、または廃棄予定のデータ媒体からは、全てのデータを消去してください。

ソフトウェア メンテナンス

Phonak では常に市場からのフィードバックをモニタリングしています。最新の Phonak Target で問題が発生した場合は、弊社カスタマーサービスまたは担当営業までお問い合わせください。

シンボルマークの説明



0459

CE マークは、Sonova AG が医療機器規則(EU)2017/745 を遵守していることを示します。

CE マークに続く番号は、上記の規則に基づき評価を行った公認機関のコードを表します。



EU 医療機器規則(EU)2017/745 に定義される記号の組み合わせで、「医療機器の製造業者」および「製造日」を示しています。



欧州共同体における認定代理人であることを示しています。

EC REP は欧州連合への輸入業者でもあります。



本機器が医療機器であることを示しています。



フィッティングソフト使用者が本ユーザーガイドを読み、考慮することが重要であることを示しています。



取扱説明書を参照してください。使用説明書は www.phonakpro.com ウェブサイトから取得できます。



特長や機能の詳細情報を提供します。



特長や機能を詳説したり、適用される関連フィッティング情報をハイライトします。



エンドユーザーの体験に影響する可能性のある機能上の制限を説明し、注意すべき重要な情報をハイライトします。

安全に関する重要な情報

Phonak Targetは医療機器です。従って、本製品の使用にあたっては危害のリスクが伴います。資格を有する補聴器専門家のみが本取扱説明書に基づきTargetを使用し、補聴器専門家が本書に記載の警告を理解し注意を払うことが重要です。

Phonakの場合、このようなリスクは、プログラムの対象となる補聴器を通じて生じます。つまり、Target自体はユーザーや補聴器装用者に直接危害をもたらすことはありませんが、Targetの使用(または誤用)により以下の事態が発生する可能性があります。

- 不正にプログラムされた補聴器が患者に販売される、あるいは
- フィッティング セッション/デモンストレーション セッション中に、補聴器を通じて有害なほど大きな音が患者に提供される。

このようなリスクは非常に低いですが、補聴器専門家と補聴器装用者の両者は注意する必要があります。



高い MPO

両耳補聴器の出力が 132 dB を超えています(疑似耳)。



高い耳鳴りノイズジェネレーター レベル

両補聴器でノイズ ジェネレーターのレベルが 80 dB(A)を超えています。「耳鳴りノイズ・バランス」画面に表示された最大装用時間に注意してください。



レシーバの問題

選択したレシーバと検出されたレシーバが異なります。正しいレシーバを選択してください。



誤った左右に関する情報

補聴器が反対側に設定されています。正しい側に変更してください。



接続に関する警告

年齢に応じて、補聴器にチャイルドロック付きパーツに取り換える必要があります。



測定設定

顧客の耳から補聴器を取り外します。補聴器の電源をオフにして、再びオンにします。最後のプロセスで、補聴器に関する全てのフィッティングデータを前の状態に戻すことができます。

システム要件

- オペレーティングシステム (OS)
- Windows 11、Home / Pro / Enterprise / Education
 - Windows 10、Home / Pro / Enterprise / Education

プロセッサ	Intel Core プロセッサ以上の性能のもの
RAM	4 GB 以上
ハードディスク容量	3 GB 以上
画面解像度	1280 x 1024 ピクセル以上
グラフィック カード	1600 万色 (24 ビット) 以上
ドライブ	DVD / USB
シリアル COM ポート	旧タイプ HI-PRO (RS-232 HI-PRO) を使用する場合のみ

- USB ポート
各目的に 1 つずつ
- Bluetooth® 技術搭載ワイヤレス アダプター*(アイキューブ II / NOAHlink)
 - アクセサリー プログラミング(コムパイロット II など)
 - HI-PRO、ただし USB ポート経由で使用する場合
 - HI-PRO 2 または HI-PRO USB
 - ノアリンク ワイヤレス

プログラミング インターフェイス	ノアリンク ワイヤレス / アイキューブ II / アイキューブ / NOAHlink / RS-232 HI-PRO / HI-PRO USB / HI-PRO2
ノアリンク ドライバ	入手可能な最新バージョン
ノアリンク ワイヤレスドライバ	入手可能な最新バージョン
インターネット接続	推奨(オンラインアップデートを行うためには必須)
サウンドカード	ステレオまたはサラウンド 5.1
再生システム	20 Hz ~ 14 kHz (±5 dB)、90 dB
NOAH のバージョン	最新バージョン (NOAH 4.4 以上) Windows 64 ビット オペレーティング システム用の NOAH の制限事項を http://www.himsa.com で確認してください。

TargetMatch

NOAH のバージョン 4.4.2280 以降
Natus® Otosuite 4.81.00 以降
Natus® AURICAL FreeFit、REM 用および AURICAL HIT 検査箱測定用

Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc が所有する登録商標です。
Sonova AG は、使用許可を得てこれらのマークを使用しています。



0459

CE マーク適用 2023 年



Sonova AG •
Laubisrütistrasse 28 •
CH-8712 Stäfa • Switzerland

sonova
HEAR THE WORLD

PHONAK
life is on